

防衛力の変革の方向性②／同志国との連携

無人アセット防衛能力^(P1)／宇宙領域^(P5)／サイバー領域^(P10)
電磁波領域^(P15)／指揮統制・通信^(P19)／同志国との連携^(P25)

令和 8 年 3 月
防 衛 省

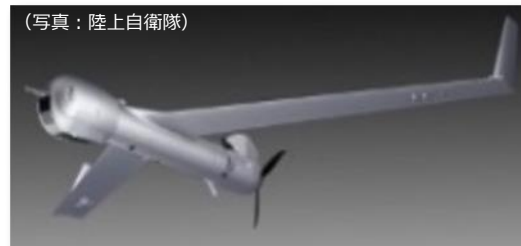
無人アセット防衛能力



無人アセット防衛能力について

- 現在の防衛力整備計画に基づき、**情報収集、ターゲティング、攻撃及び戦闘支援用途**に用いる各種無人アセットの実証・研究開発・取得を推進中。
- 令和8年度予算案において1,001億円を計上して無人アセットの導入を進め、令和9年度中に**無人アセットによる多層的沿岸防衛体制【SHIELD】**※を構築。
- 人口減少の中にあっても、我が国を守り抜く体制をより強固なものとする必要があるため、**無人アセット防衛能力の整備が急務**。

※ SHIELD : Synchronized, Hybrid, Integrated and Enhanced Littoral Defense



各種無人アセット



ウクライナ侵略における無人アセットの活用

■ ウクライナ侵略において、無人アセットを用いたさまざまな活用の事例が存在

- ✓ ロシアは、安価で大量生産できる長距離攻撃用・汎用UAV※¹と、**既存の弾道・巡航ミサイルを組み合わせた**大規模な複合攻撃をウクライナに実施
- ✓ 大量に投入されたISR T※²用の無人アセットにより、両軍前線における部隊の動向が透明化
- ✓ 艦艇・爆撃機など露側のハイエンドアセットを、ウクライナは安価大量の**Attritable (損耗許容)**※³な無人アセットで撃破し、非対称的なコストを賦課
- ✓ 無人アセットを活用することで、戦力を温存し**長期戦における人的損耗を最小化**
- ✓ 前線部隊で得られた無人アセットの運用データを開発元にフィードバックすることで**極めて短期間でアップデートを繰り返す**

※1 UAV : **U**n**m**anned **A**erial **V**ehicle (無人航空機)

※2 ISRT : 情報収集・警戒監視・偵察・ターゲティング **I**ntelligence, **S**urveillance, **R**econnaissance and **T**argeting

※3 Attritable : 「使用後の回収及び再利用を前提としているが、任務上必要であれば損耗を許容可能であること」

(写真 : ウクライナ国防省情報総局)



自爆型長距離UAV (シャド型無人機)

(写真 : ウクライナ軍)



前線から離れた後方から
FPVドローンにより敵を攻撃

(写真 : ウクライナ国防省情報総局)



無人水上艇のイメージ (MAGURA V (ウクライナ))

検討の方向性

- 無人アセット防衛能力は、引き続き、防衛力の強化に当たって重視すべき能力。
- ウクライナ侵略等においてみられる無人アセットの活用及び我が国の人口減少という厳しい現状を見据えつつ、わが国への攻撃をより効果的に阻止する観点も踏まえ、次の事項について重点的に検討を進める。

主な 検討事項

- 周辺国等の軍事力の増強を踏まえ、我が国への攻撃をより効率的に阻止できる戦力組成へと変革することが急務。中でも、それを現実のものとする革新的な研究開発が決定的に重要となる。徹底的な無人化・自動化を進めていく結果として、「世界でもっとも無人アセットを駆使する組織」を目指していく。
- 急速に変化する戦い方に適応できるようRapid Innovation Cycleを実現していく。

(イメージ：防衛装備庁)



戦闘支援型多目的USV

(写真：海上自衛隊)



滞空型UAV (MQ-9Bシーガーディアン)

(写真：航空自衛隊)



目標情報収集用無人機

宇宙領域における防衛能力について



安全保障における宇宙利用

【軍民における宇宙利用の拡大】

- ◆ 宇宙空間の利用は、通信、観測、測位等の面で **国民生活の基盤そのもの**
- ◆ 安全保障面でも、陸海空を含むオールドメインの **軍事作戦上の指揮統制・情報収集基盤の中核**（衛星からの画像収集や通信衛星の利用）
- ◆ **各国においても軍事作戦における宇宙依存**は極めて高く、衛星の機数増加や能力強化に注力

【宇宙におけるリスクと脅威の拡大】

- ◆ 一部の国家は**軍事優勢を確保するため、他国の衛星を妨害・無力化する動きを活発化**
 - ✓ キラー衛星に資する技術開発や DA-ASAT（直接上昇型対衛星）ミサイルの開発・実験

軍事衛星等の増加

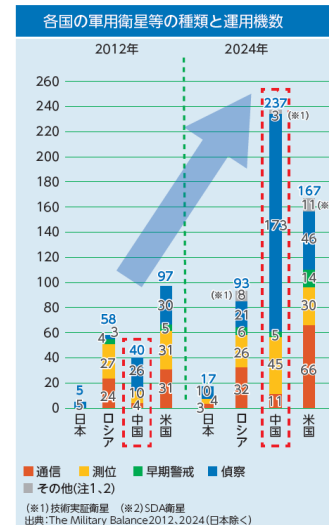
- ◆ 昨今は、中国の増加が顕著であり、2012年からの12年間で約6倍に急増

宇宙ゴミ等の増加

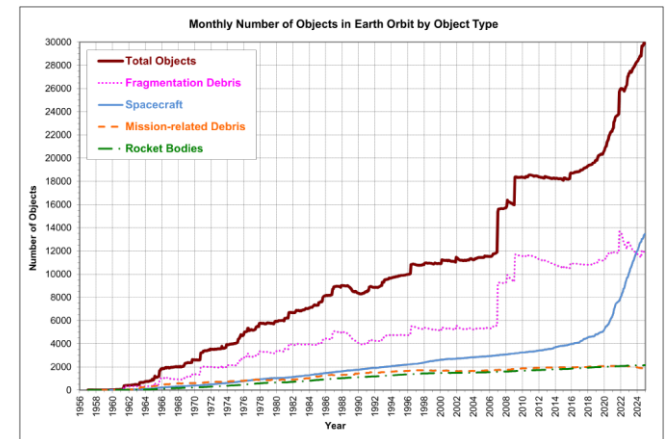
- ◆ NASA把握デブリ数：30,000個超（約10cm以上）

人工衛星の破壊実験

- ◆ 2007年中国が人工衛星破壊実験を実施。2021年ロシアも破壊実験



各国の軍事衛星等の種類と運用機数
(令和7年版防衛白書)



地球周回軌道上の物体数の推移 (NASA)

「宇宙領域における防衛能力」とは

宇宙空間における脅威とリスクが拡大する中、国民生活の基盤及び自衛隊の作戦の中核たる宇宙利用をいかなる状況においても確保していく必要

宇宙領域における防衛能力

「宇宙領域防衛指針」で示している、宇宙領域における防衛能力強化の方向性



1

迅速かつ的確な戦況把握

- ✓ 「スタンド・オフ防衛能力」の実効性確保のための移動目標のリアルタイム探知・追尾
- ✓ 滑空段階における極超音速滑空兵器（HGV）のリアルタイム探知・追尾
- ✓ 我が国周辺の動態情報や戦況のリアルタイム把握

2

作戦の基盤となる衛星通信の確保

- ✓ 成層圏、地球低軌道から静止軌道に至る多層的で抗たん性の高い通信ネットワークの構築
- ✓ 増大する通信所要に対応する能力の整備



3

機能保証

- ✓ 宇宙領域把握（SDA）能力をさらに強化しつつ、衛星の防護に必要な能力も構築
- ✓ 宇宙システム全体の抗たん性を強化しつつ、機能損失した場合の即応的な補完体制の構築も検討

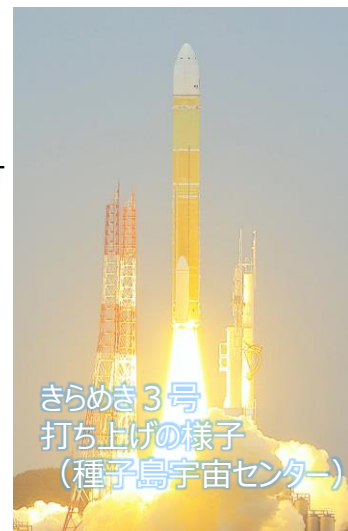
4

相手方の指揮統制・情報通信等の妨げ

5

施策を下支えする総合的な取組

- ✓ 宇宙領域に係る組織体制・人的基盤強化、同盟国・同志国との連携強化



「宇宙領域における防衛能力強化」における基本的な考え方

- 我が国の宇宙の安定的利用が阻害された場合、特に I S R T※1や通信の分野において相手に圧倒的に劣後する状況となりかねず、防衛省・自衛隊の任務遂行に重大な支障が生じる

将来の自衛隊の戦い方のカギとなる「意思決定の優越」を確保する上で、自衛隊の宇宙の安定的利用を確保することは極めて重要

- 加えて、宇宙利用が阻害された場合、我が国の経済・社会活動が害されるおそれ
- 防衛と経済の好循環を図りやすい領域であり、その特長を最大限活用していく

【達成すべき目標】

- ◆ 自衛隊の宇宙の安定的利用を確保しつつ、社会インフラとしての国民生活の宇宙利用を確保するための体制を構築していく

※1 Intelligence, Surveillance, Reconnaissance and Targeting (情報収集・警戒監視・偵察・ターゲティング)

検討の方向性

- 宇宙領域における防衛能力は、引き続き、防衛力の強化に当たって重視すべき能力であり、次の事項について重点的に検討を進める。

主な 検討事項

- 我が国に優位性がある技術分野に投資し、自衛隊の能力を向上させるとともに、企業の成長を牽引
- 宇宙領域での更なる能力向上と運用協力の両面において、同盟国・同志国と相互に補完し合う体制を構築
- 宇宙領域に関する人材の確保、知識の底上げ
- オールジャパンでの宇宙領域における優位性の確保

サイバー防衛能力の強化

The background features a complex digital aesthetic. A central vertical beam of light divides the space. On either side, there are glowing circuit traces and a large, semi-transparent circular interface with various indicators and data points. In the bottom-left corner, a network graph with interconnected nodes is visible.

近年のサイバー攻撃事例から得られる教訓

第三国を踏み台とした攻撃（有事以前）



- ◆ サイバーセキュリティ基盤が脆弱な**第三国を踏み台**とし、西側諸国の**軍事機密情報等**を窃取。我が国の**防衛装備品供給網**にも**潜入**し、機密情報が窃取されるおそれ

第三国のサイバーセキュリティ向上のための能力構築支援
(サイバー安全保障環境の改善)

A P Tによる攻撃キャンペーン（有事以前）



- ◆ Volt Typhoon等のA P T（高度持続的脅威）が、**将来の「有事」**に通信等の基幹インフラを破壊するため、「**有事以前**」から**重要インフラや軍事施設**を対象に長期間潜伏
- ◆ 複数の標的/地域にまたがる**攻撃キャンペーン**の展開、**A I**を駆使した**サイバーキルチェーン**の自動化
- ◆ 自衛隊の戦力発揮基盤である指揮統制・情報システムや、その活動基盤である**重要インフラ等**を「**有事以前**」から防護することが、「**有事**」における任務保証の確保に直結

平素から相手方に継戦コストを賦課
攻撃検知以前から潜在脅威を排除

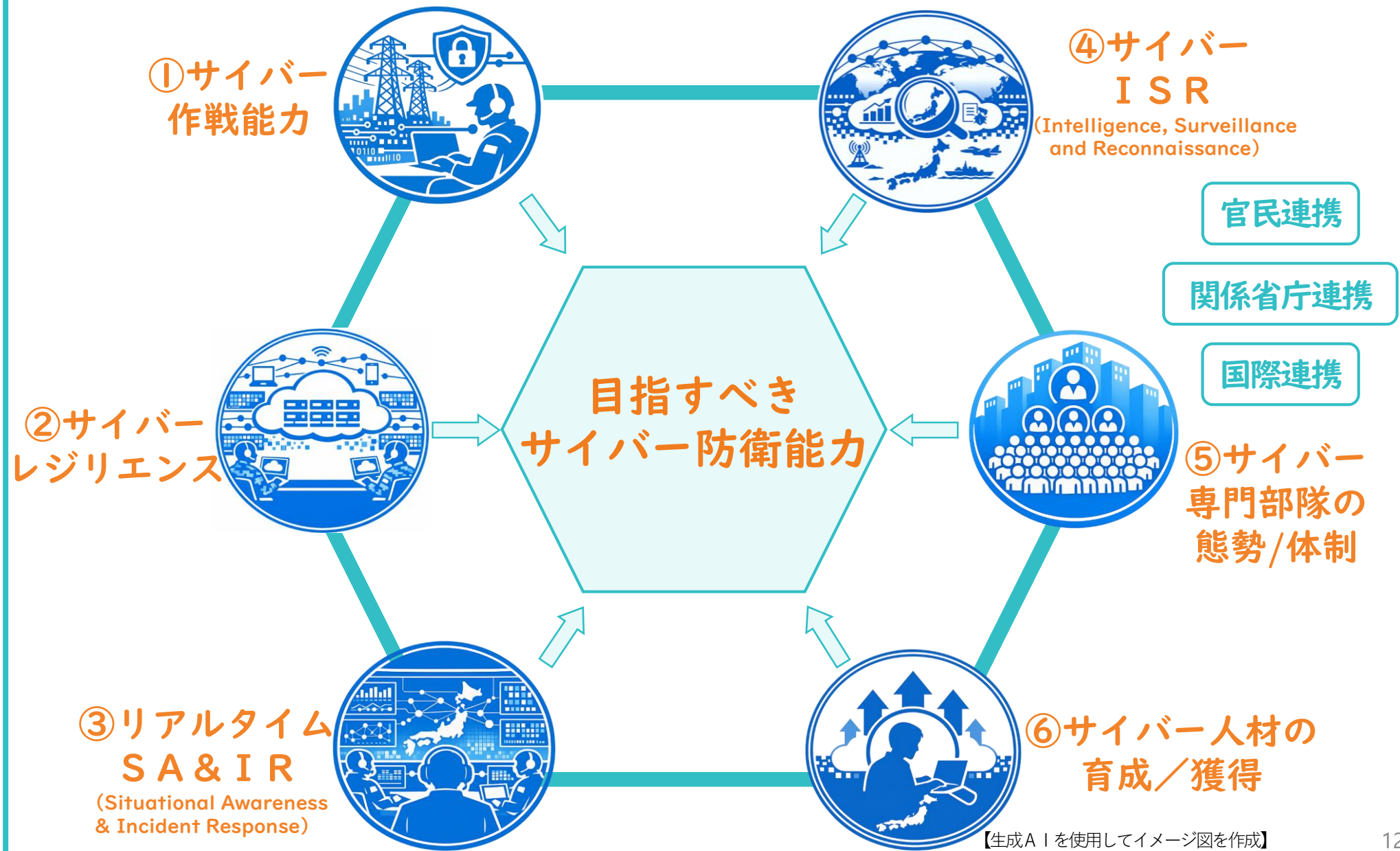
ウクライナ侵略（有事）



- ◆ **衛星通信網に長期間潜伏**し、陸上侵攻直前にマルウェアを発動
- ◆ **同時多発的なサイバー攻撃**により、防御側のリソースを逼迫
- ◆ ウクライナは、開戦以前から米軍によるウクライナへの**スレットハンティング支援**により、潜在脅威の早期検知/排除に成功

持続可能な作戦能力
同時多発的攻撃に耐え得る態勢
開戦以前からの防御力の向上

サイバー防衛能力の強化の方向性



各取組の具体的な方向性（Ⅰ）

①サイバー 作戦能力



- ◆ 同時多発的かつ高烈度な攻撃キャンペーンに対抗すべく、**サイバー作戦能力の強化を含む**自衛隊サイバー防衛隊の態勢を拡充
- ◆ 「有事」における我が方の**任務保証を確保**するため、「有事以前」から、**アクセス・無害化措置とスレットハンティングを活用**し、相手方の攻撃キャンペーンを抑止・対処できる態勢を構築
- ◆ 第三国を踏み台とした攻撃への対処のため、**第三国への能力構築支援**を検討

②サイバー レジリエンス



- ◆ 「**防衛省クラウドの防護**」をサイバー領域作戦の一環として位置づけ、**自衛隊サイバー防衛隊**がその中核を担うべく態勢を整備
- ◆ クラウド上の**Security for AI**を確保し、**サイバー、AI、データの「三位一体」運用**を可能とする機能を、自衛隊サイバー防衛隊を中核に整備
- ◆ 不測の事態においても**末端部隊が直接情報を処理**することが可能となるよう**地方拠点におけるエッジサーバーの整備**を推進

各取組の具体的な方向性（2）

③リアルタイム SA&IR



◆ 同時多発的かつ高烈度なキャンペーン下において、**リアルタイムのサイバー状況把握及びインシデント・レスポンス能力を強化すべく、自衛隊サイバー防衛隊の指揮下で各自衛隊が統合的に連携/協調する運用形態**の確立

◆ 潜在する脅威の排除やインシデント・レスポンス等の実効性のため、**平素から「有事」に至るまで情報収集**を行い、想定する脅威に対する**「仮説」を構築する能力を強化**。関係省庁/外国機関/防衛産業との**緊密な連携も確保**

◆ 防衛省・自衛隊が取得したサイバー空間における各種情報を関係省庁に共有し、政府の取組（**パブリックアトリビューションや情報戦**）に貢献

⑤サイバー専門部隊の態勢/体制



◆ 同時多発的かつ高烈度なキャンペーンにおいても**任務を遂行できる態勢**を確保すべく、自衛隊サイバー防衛隊を中心とした**サイバー専門部隊の態勢/体制を強化**

◆ 現計画において、サイバー専門部隊の「量」的目標は**一定程度達成しつつある**ことを踏まえ、次期計画では、部外人材の活用も含め**サイバー人材の「質」の確保を推進**（特に**AI/データ/クラウド等**）

④サイバーISR



⑥サイバー人材の育成/獲得

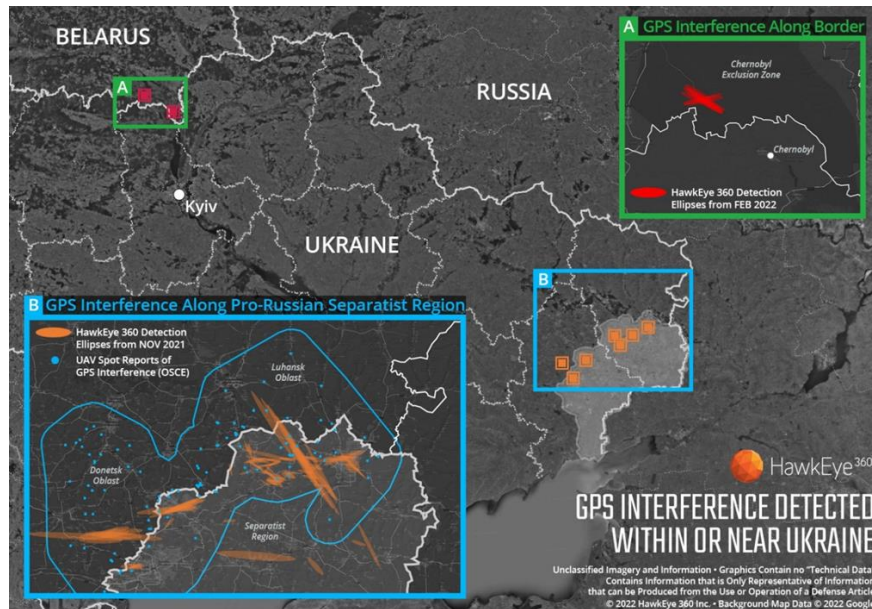


電磁波領域



ウクライナ侵略から得られた教訓と強化の方向性

- 精密攻撃や無人機の無力化を目的とした**電子戦の高度化**などを踏まえて、これまで以上の**電子妨害能力**及び**電子防護能力の強化**が必要
- 戦場における電磁波利用の増加により、限られた周波数帯の振り分けや、友軍相撃を回避するため、電磁波の環境を整える役割を担う**電磁波管理の機能が極めて重要**であり、重点的に強化する必要



出典 : HawkEye 360

侵攻開始直前に国境付近でGPS妨害を観測



出典 : Petro Poroshenko Foundation
SHATRO 50-1M electronic warfare system

出典 : Tochnyi.info
<https://tochnyi.info/2024/01/fpv-data-analysis/>

左上 : Volnoretz(口)

左下 : SHATRO 50-1M(ウ)

右上 : 自爆型のFPVドローン

出典 : Military (Photo by Petro Poroshenko Press Service)
https://defencesecurityasia.com/en/fpv-drones-pose-increasing-threat-russia-equips-tanks-with-ew-systems/#google_vignette

自爆型UAV対策として、範囲数百m～10km程度の個人/装備品防衛用の電子戦システムが登場

【電磁波管理】

電磁波の使用状況を把握し、使用する周波数などを適切に調整する活動

【電子戦支援】

相手の使用する電磁波に関する情報を収集、分析

【電子妨害】

相手の通信機器やレーダーに対する電磁波照射により、相手の通信や搜索能力を低減・無効化

【電子防護】

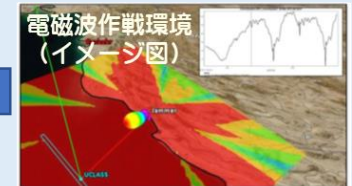
ステルス化や周波数の変更等による、相手の電子妨害の影響からの防護

各取組の具体的な方向性（1）

電磁波管理

- 電磁波の**利用環境を迅速・的確に把握**し、電子戦の**指揮統制**を行うことが重要
- 無人機の増加などに伴い、**電波干渉などを回避**する必要が増大

- ◆ 電磁波の**作戦環境を的確に把握**し、電波干渉を回避する**周波数の割当の自動化**や、電子戦において**指揮統制**を行う能力を強化



電子戦支援

- 電子戦部隊が保有するセンサーを質・量ともに充実させ、作戦を実施するための**電磁波環境をリアルタイムに把握**する能力が重要
- 戦場における作戦テンポが高速化しており、**状況変化への迅速な対応**が必要

- ◆ 電子戦部隊が電磁波の作戦環境を恒常的に把握するため、**センサーを拡充・高度化・長距離化・ネットワーク化**
- ◆ 収集した電磁波情報の処理を**AIを活用して自動化・高速化**

各取組の具体的な方向性（2）

電子妨害

- **スタンド・オフ・ジャマー**に係る能力は一定程度保有
- 脅威に対する**電子妨害手段を向上**する必要
- 大量の**UAV等の飛来**時における**対処能力を向上**する必要

- ◆ **スタンド・オフ・ジャマー**、損害許容度の高い無人アセット等による**スタンド・イン・ジャマー**、UAV等対処のための**高出力エネルギー装置**等の整備による**電子妨害能力の多様化**



【生成AIを使用してイメージ図を作成】
スタンド・イン・ジャマー



（イメージ図：防衛装備庁）
高出力マイクロ波システム

電子防護

- 現行アセットはステルス性など**受動的防護への依存が大きい**
- 測位・時刻を必要とするシステムの拡大により、**PNT**[※]（測位・航法・時刻）の**重要性は益々増大**

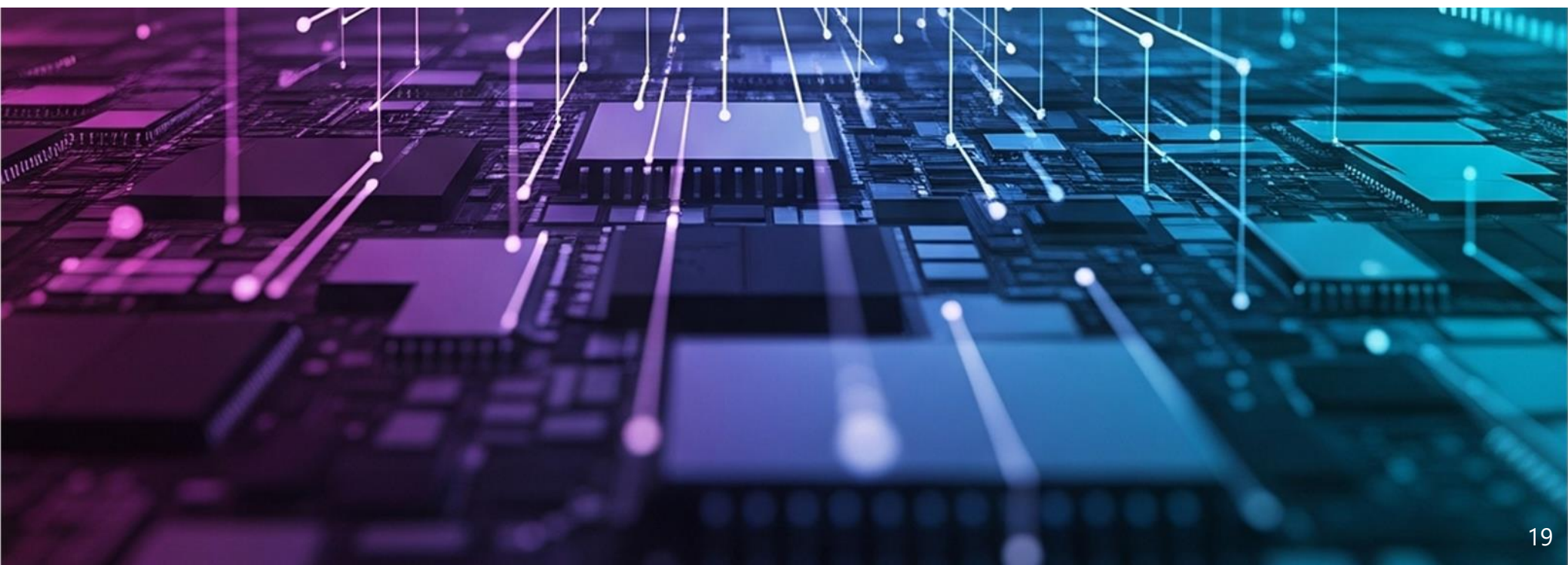
※ PNT : Positioning・Navigation・Timing

- ◆ ステルス性などの受動的防護とともに、周波数ホッピングなどの能動的な対策の強化により、**電子防護を多層化**
- ◆ “GPS”、“みちびき”など複数の衛星測位や地形データ照合などによる**PNTのマルチ化**



【生成AIを使用してイメージ図を作成】

指揮統制・通信

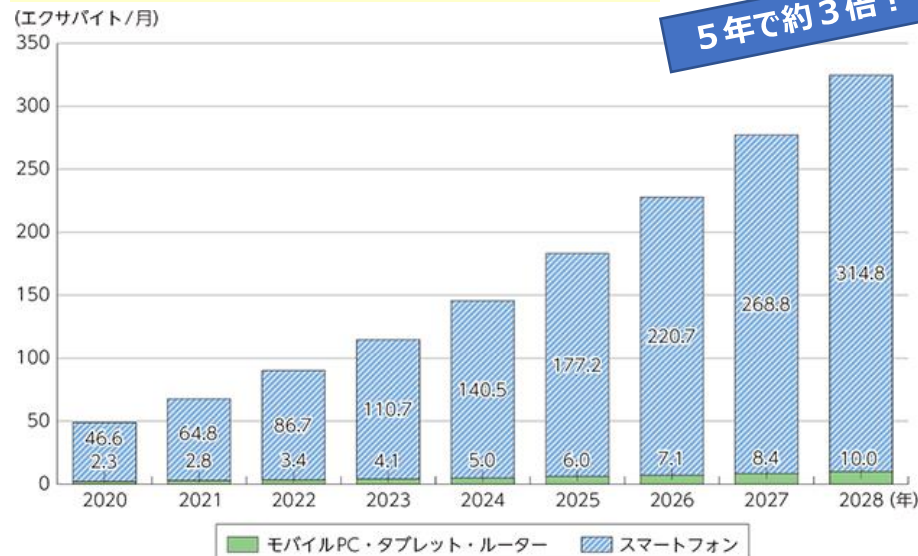


情勢認識① ゲームチェンジャーとしての先端技術

- ◆ 近年の著しい技術進展に伴い、①高性能化・多様化したセンサーが取得する**データ量が劇的に増大**、②これらのデータが**リアルタイムかつ高速・大容量で伝送**され、③AIを活用し、**データの蓄積・処理・分析**を高度かつ適時適切に行うことが可能に。

①センサーの多様化・高度化とデータ量の増大

全世界で流通するデータ量は爆発的に増加



世界のモバイルデータトラフィックの予測 (デバイス別)

出典：総務省情報通信白書

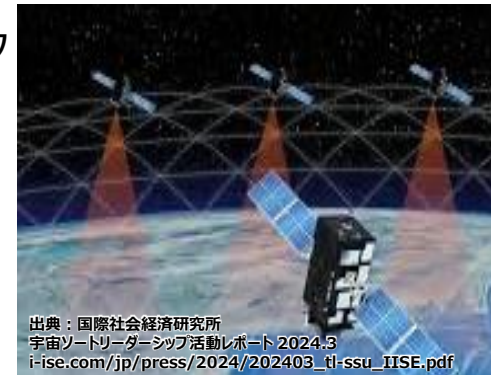


(写真：ウクライナ軍)

ウクライナはロシアによる侵略を受けて以降、**2024年までにドローンから200万時間分 (=約228年分)の戦場映像を収集したとされる**
(出典：ロイター記事 (2024年12月26日))

②リアルタイム大容量通信網の実現

光電融合技術によるオール光ネットワーク (APN: All-Photonics Network) など、**低消費電力・大容量・低遅延高速伝送の実現**に向けた技術開発や、静止衛星軌道より低遅延での通信を実現する**低軌道衛星コンステ**によるサービスの提供が進んでいる。



出典：国際社会経済研究所
宇宙ソートリーダーシップ活動レポート 2024.3
i-ise.com/jp/press/2024/202403_tl-ssu_IISE.pdf

③AIの急速な進化



出典：Salvador Rios (@salvadorri)



[生成AIを使用してイメージ図を作成]

ビッグデータの収集・蓄積が可能になったことで、各国はChat GPT、Claude、Gemini(米)、DeepSeek(中)をはじめとする生成AIや、フィジカルAIの開発、効果的な運用に注力

これまで十分に活用されてこなかった、大量のデータの利活用が技術進展により可能に!

情勢認識② 先端技術を活用した迅速化された意思決定

- ◆ ウクライナ侵略においては、無人機の自律的運用や火力統制の文脈で、既に**データとAIを活用した戦い方**が現在進行形で繰り広げられており、**AIは今や戦闘の帰趨を左右する重要な要素**
- ◆ 具体的には、多様なセンサーなどから得られたデータを統合し、AIを活用することにより、次のようなことが可能となり、**従来の人間の能力の限界を超えた、迅速・正確な意思決定**に寄与
 - ①「戦場の霧」が薄れ、戦場が可視化（＝見えなかったものが、見えるように）
 - ②データから行動パターンを分析し、将来予測を実施（＝AIによる大量のデータ活用）
 - ③ターゲットの優先順位付け・私の戦力配分・攻撃（＝人間の作業を支援）

ウクライナにおける「新しい戦い方」の事例

戦場の可視化



ウクライナ側は事前に目標機体の脆弱な箇所をAIに学習させ、学習データを元にドローンが自律的にターゲットの優先順位・攻撃箇所を判断。また、直近ではAI搭載のドローンが実戦投入され、自律飛行で攻撃との指摘も。

意思決定支援



ウクライナは、各種情報を一元的に集約して各軍種のプラットフォーム間で共有する情報監視システム「デルタ」を開発。前線部隊、ドローン、衛星等の収集情報をAIが処理し「デルタ」に保存。目標情報をタッチ入力すれば、情報が自動的に「デルタ」にアップロードされ、自動で最適な火力割り当てを実施。

「新しい戦い方」のイメージ

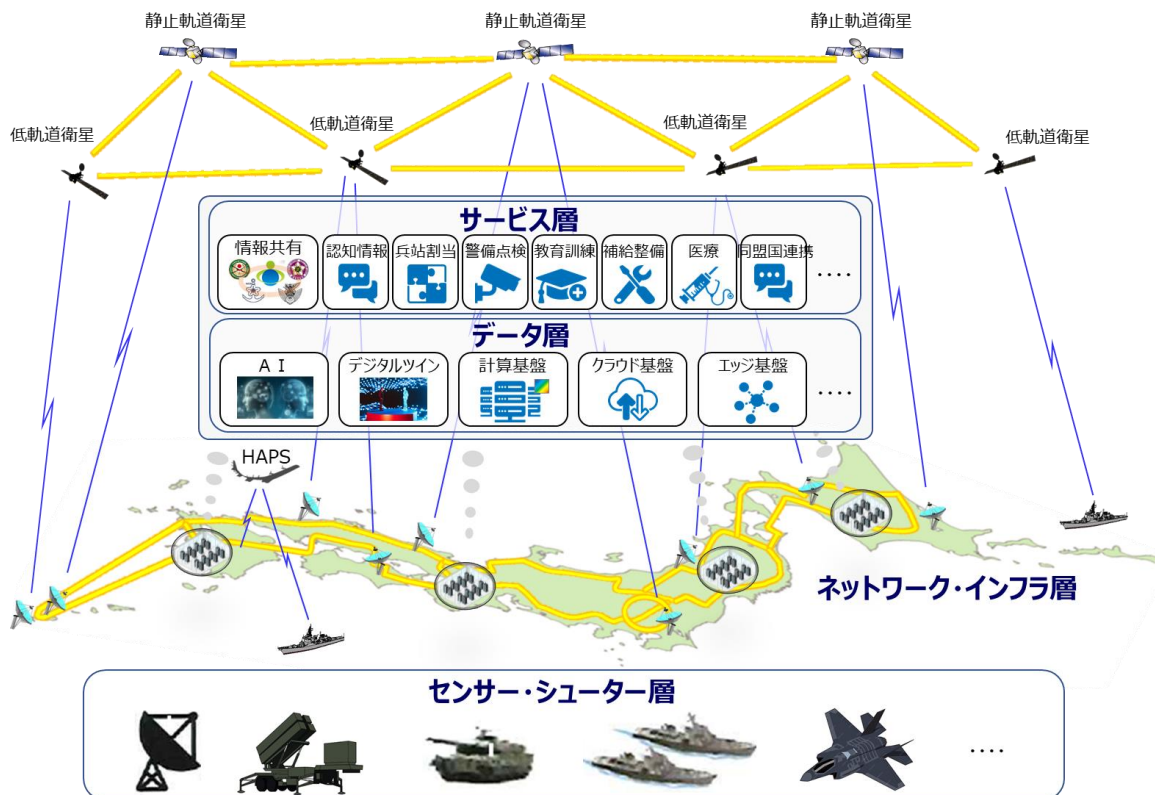
- ◆ 各種データをリアルタイムで有機的に統合し、AIやデジタルツイン等により、戦闘状況や将来予測を可視化
- ◆ 最適な戦力発揮の手段・時期をAIにより提案
- ◆ 司令部のみならず、現場部隊からも必要な情報にアクセス
- ◆ メッシュ状のネットワークにより、レジリエンスを確保しつつ、万一断絶した場合もエッジAIを活用し前線で作戦を継続



通信のレジリエンスの確保によって「シームレスな情報アクセス」を維持しつつ、あらゆるデータを統合してAIで処理することで「戦場の可視化」や「将来予測と提案」を実現し「意思決定の優越」を確保 ⇒ 「データセントリックな戦い方」

検討の方向性

- ◆ 情報通信インフラは全ての基盤であり、スタンド・オフ防衛能力や無人アセット活用の大前提
- ◆ 次のような取組を通じ、データセントリックな戦い方を実現



サービス層

⇒ **データとAIの最大限の活用**

例：指揮統制・判断支援

データ層

⇒ **データ基盤の強化** (次頁)

ネットワーク・インフラ層

⇒ **マルチ化・高速大容量化**

例：マルチオービット衛星システムやHAPS
衛星間の光通信、地上回線のAPN化

共通

⇒ **セキュリティ基盤の強化**

✓ システムのリスク管理の強化

例：RMF、ゼロトラスト

✓ 通信やデータに係る暗号の強化・導入

例：耐量子暗号、量子暗号通信



特に注力する必要がある取組：データ基盤の強化

- ◆ 意思決定の迅速化やA Iの活用には、前提として**大量のA I学習用データ**が必要であり、これを蓄積しA Iにより処理させる、データ統合プラットフォームとしてのクラウド基盤の整備が必要
- ◆ 激増する**データの蓄積・処理を適時適切に行う**必要があることから、オンプレミス型を主体としたインフラ整備を脱却し、**民間のクラウドサービスを併用するハイブリッド・クラウドへの移行**を推進
- ◆ 民間クラウドの導入に際しては、「安全性」と「主権性」を確保

オンプレミス

自前で設置するサーバ環境

民間のクラウドサービス

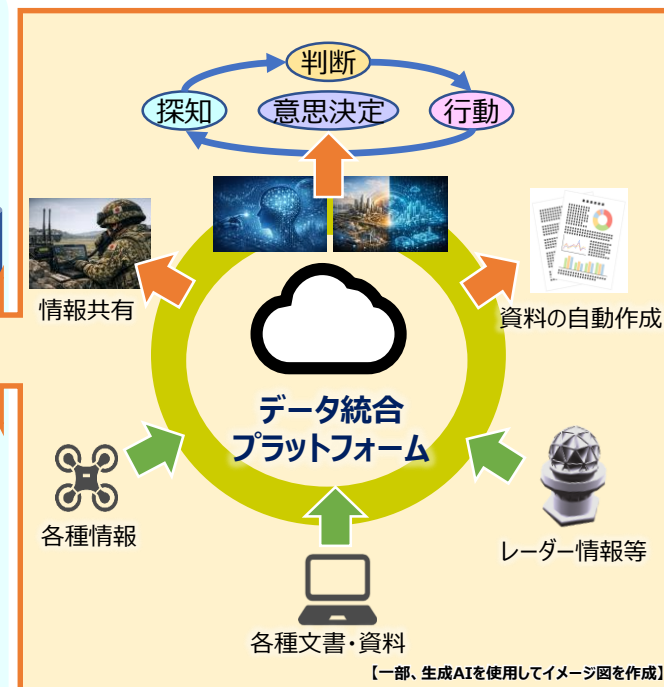
安全性と主権性を確保した
大容量のクラウド環境

ハイブリッド・クラウド

- ◎ カスタマイズ性が高い
- ◎ 運用統制が容易



- ◎ セキュリティを含む最新のサービス
- ◎ 拡張性が高い
(AIによる大容量処理に適する)
- ◎ データの抗たん性が高い
- ◎ 運用開始までの期間が短い





同志国との連携

～現状、課題と方向性～

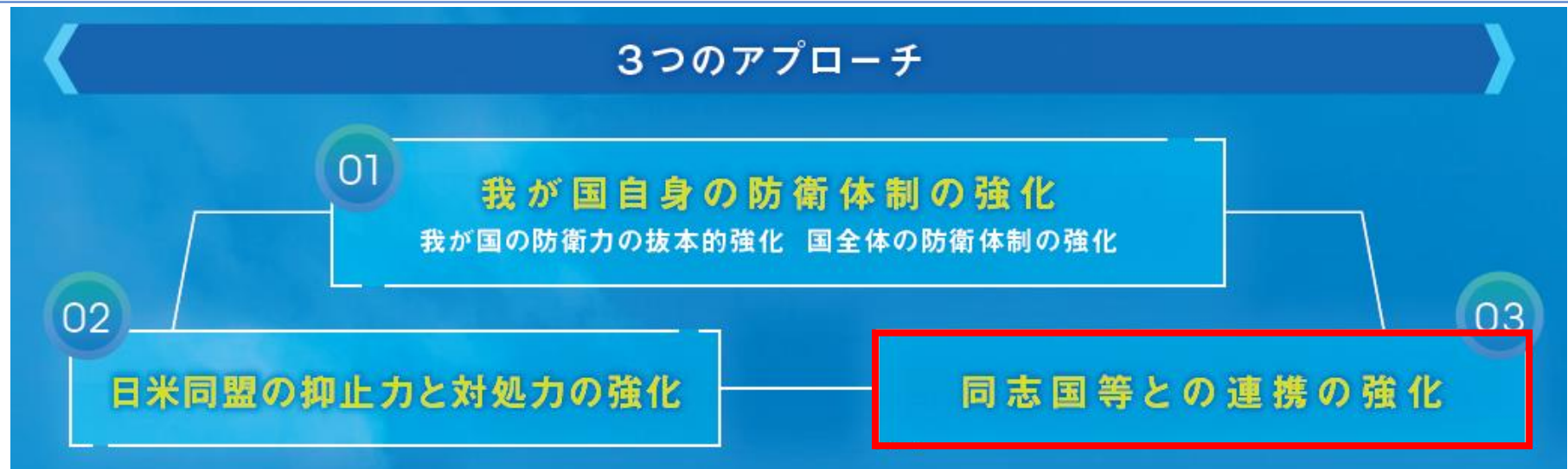
同志国連携の現状：戦略三文書における位置づけ

- 国家安全保障戦略

「外交を中心とした取組の展開」（我が国が優先する戦略的なアプローチの筆頭）の一環たる「自由で開かれた国際秩序の維持・発展と同盟国・同志国等との連携の強化」

- 国家防衛戦略

我が国の**防衛目標を実現するための3つのアプローチの1つ**としての**同志国連携**



【参考】国家防衛戦略（2022年12月16日閣議決定）

Ⅲ 我が国の防衛の基本方針

3 同志国等との連携

第三のアプローチは、同志国等との連携の強化である。力による一方的な現状変更やその試みに対抗し、我が国の安全保障を確保するためには、同盟国のみならず、一か国でも多くの国々と連携を強化することが極めて重要である。その観点から、FOIPというビジョンの実現に資する取組を進めていく。

まずは、日米同盟を重要な基軸と位置付けつつ、地域の特性や各国の事情を考慮した上で、多角的・多層的な防衛協力・交流を積極的に推進していく。その際、同志国等との連携強化を効果的に進める観点から、円滑化協定（RAA）、物品役務相互提供協定（ACSA）、防衛装備品・技術移転協定等の制度的枠組みの整備を更に推進する。（略）

戦略三文書策定後の環境の変化

- ロシアによるウクライナ侵略の長期化を含む戦略環境の変化に対応する必要性。
- 長期戦に対応するための態勢の確保等の必要性。

例1：ウクライナ侵略での同盟国・同志国等からの支援・協力

- ・ 西側諸国による多数の装備品の供与や、情報面・教育訓練面での支援を通じた、ウクライナ軍の作戦能力や継戦能力の強化。
⇒ 長期戦においては、同盟国・同志国からの継続的な支援が大きな役割。
- ・ ウクライナは西側諸国との装備品の共同生産に向けた取組も推進。ロシアも国外から兵器を取得し使用。
⇒ 二国間・多国間での装備品の生産・供給の分担や共通の整備・補給基盤の確保といった取組も、継戦能力を強化する上で大きな役割。

例2：シーレーンの安定的利用の確保のための同盟国・同志国等との連携

- ・ シーレーン全般の安定的利用の確保に加え、特に太平洋において民間船舶が安全に通航できる状態を維持することは、自衛隊の活動のみならず、国民生活を支える上でも不可欠。
- ・ 近年の武力紛争の事例をみても、シーレーンの不安定化が、エネルギーや食料を含む一国家ひいては国際的な物流全体に深刻な影響を及ぼしている。
⇒ 我が国のシーレーンは広大であり、その安定的利用の確保のためには、同志国・同盟国等との連携が不可欠。

ウクライナへの供与が発表された主な装備品



「ジャベリン」



「HIMARS」

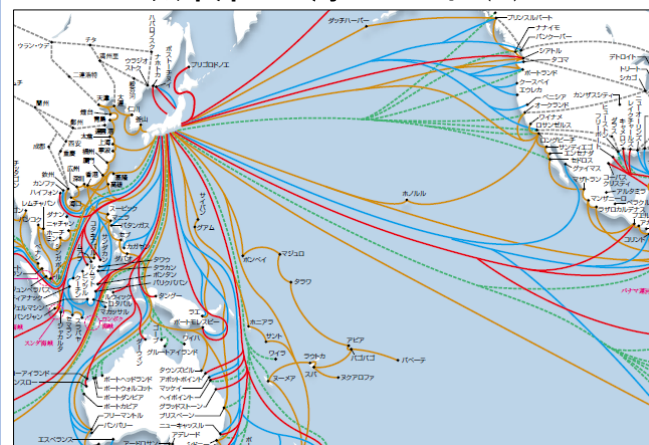


「ペトリオット」



「F-16戦闘機」

太平洋上の海上ルート（※）



（※）出典：「日本の海運 SHIPPING NOW 2025-2026」
公益財団法人日本海事広報協会編。引用に際し画像を一部加工。

同志国連携の現状：アプローチ

○ 同志国連携については、**二国間、多国間協力を通して相当程度進展**。防衛協力・交流の制度的基盤であるACSA（物品役務相互提供協定）、RAA（円滑化協定）、情報保護協定、防衛装備品・技術移転協定の締結も着実に進展。

方法論としての連携の枠組み

- 二国間協力やミニラテラル協力を通し、**多層的な協力網を構築**し、これらを相互に接続
 - 基軸としての**日米同盟**
 - ⇒ 日米豪、日米豪比、日米韓、日米豪印
 - 次期戦闘機の共同開発：日英伊
- 多国間協力：日ASEAN、JPIDD、NATO-IP4、PIPIR

※ ミニラテラル協力：3か国以上の少数の国々の間で実施される連携の形態

※ JPIDD：日・太平洋島嶼国国防大臣会合

※ IP4：NATOのインド太平洋パートナー（日、豪、ニュージーランド、韓国）

※ PIPIR：インド太平洋産業基盤強靱化パートナーシップ

防衛省のアプローチ

- 「**OCEANの精神**」（2025年シャングリラ会合）

開放性、包摂性、透明性を確保しながら①「**ルールに基づく国際秩序を回復**」、②「**アカウンタビリティを強化**」、③「**国際公共益を増進**」しようという精神を共有した上で、価値と利益を共有する国が、①地域全体を**俯瞰的に捉え**、②其々の自主的な取組の間で協力と連携を強化することで「**シナジー**」を生み出し、それにより③**インド太平洋全体に新たな価値と利益をもたらそう**という**姿勢を共有すべき**との各国の**国防当局**の方向性

- 「**多層的な相互連結性の網**」（2025年ADMM+会合）

地域を俯瞰し、各国で運用や共同訓練、人的交流や能力構築支援、装備・技術協力をモザイクのように組み合わせて**相互連結性の重層的な網**をはりめぐらせていく、そして、**強固なシナジーを生み出し**、地域全体に**柔軟で強靱で安定的な秩序**をもたらしていく。



同志国連携の現状：ツールと制度的枠組み

防衛協力・交流の主なツール

- 人による協力・交流（例：「2+2」・防衛大臣会談などのハイレベル交流、実務者交流、マルチの安保対話、教育・研究交流等）
- 部隊による協力・交流（例：共同訓練・演習、艦艇や航空機の相互訪問（寄港・寄航）、部隊同士の交流行事等）
- 能力構築支援（例：様々な分野におけるセミナーや実習、技術指導、教育・訓練の視察や意見交換）
- 防衛装備・技術協力（例：装備品の海外移転、共同研究・開発、国際展示会への出展、官民防衛産業フォーラムの開催等）

防衛協力・交流の制度的枠組み

- 情報保護協定：相手国政府等との間で交換される秘密情報を適切に保護するための措置等について定める協定
- 防衛装備品・技術移転協定：両政府が参加する装備品・技術の共同開発・生産並びに移転される装備品・技術の取扱いに関する法的枠組みを設定するための協定
- ACSA：他国軍隊と一緒に活動する際に、物品・役務の授受の際の決済手順を定め、それらの融通を円滑にする枠組み
- RAA：自国部隊が相手国を訪問して共同訓練等を実施する際の法的地位と、相互に各種の便宜を図ることを定める協定

	豪	英	比	尼	星	印	仏	独	伊	加	宇	韓	NATO
情報保護協定	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
防衛装備品・技術移転協定（※）	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
ACSA	○	○				○	○	○	○	○			
RAA	○	○	○										

（※）防衛装備品・技術移転協定は上記のほか、スウェーデン、マレーシア、ベトナム、タイ、UAE、モンゴル、バングラデシュとの間でも発効。

検討の方向性

○ 地域における抑止力を高めていく観点から、より実効性の高い形で同志国連携を進めるため、以下について重点的に検討を進める。

主な検討事項

- ハイレベル会談等の人的交流、共同訓練等の運用協力、装備・技術協力といった各分野の間のシナジーの確保
- 二国間協力と日米・ミニラテラル協力の間のシナジーの確保
- 同志国の個々の事情に応じた協力のあり方

